

セクハラ・ パワハラ アンケート 結果

調査年
2015・2016年

全教北九州市教職員組合女性部

〒802-0071
北九州市小倉北区黄金一丁目4-9-208号
TEL 093-280-4776

ハラスメントを
見逃さない

人権が尊重され
る職場を！

一人で悩まない

平成24年福岡県パ
ワハラ防止の手引き
(指針)

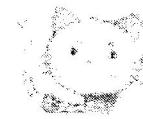
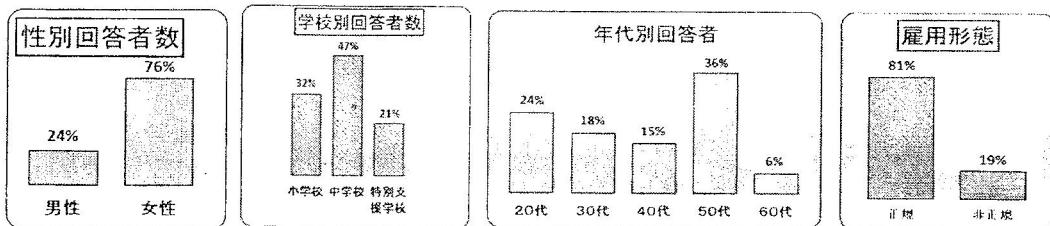
管理監督者には職
員が職務に専念でき
る良好で明るい職場
環境を確保する義務
がある。

職員一人一人の尊
厳や人格が尊重され
る職場は

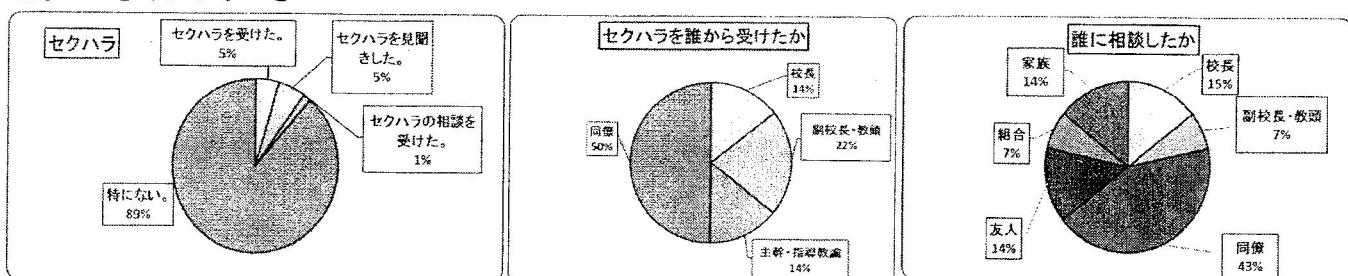
職場の活力・仕事へ
の意欲・職場全体の
生産性の向上につな
がる。

全教北九州市教職員組合女性部 セクハラ・パワハラアンケート結果 2017, 2月発行

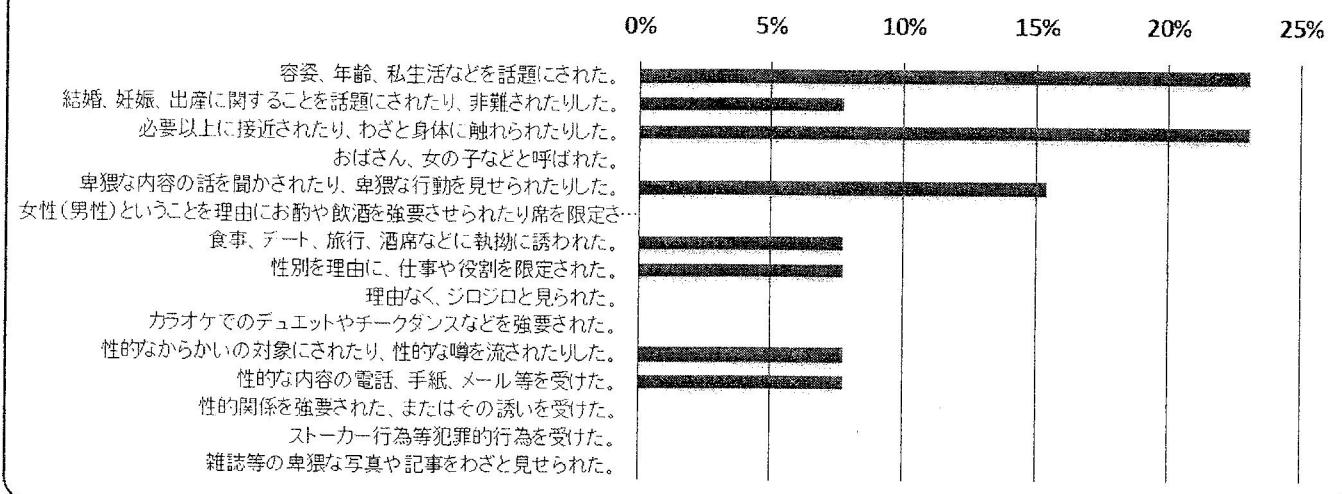
2016年に皆様にご協力いただいた（2015, 2016年に関して）アンケート結果の報告です。2年前に行ったアンケート結果と比較し、ハラスメントに対して職場がどのように改善されているか、また、職員全体の意識はどのようなものかなどを考え、ハラスメントのない、気持ちよく働く職場環境を目指していきたいと思います。



セクハラについて



セクハラ内容 (%)



新採の先生が、出産のことでの「時期がよくない」などと言われていた。

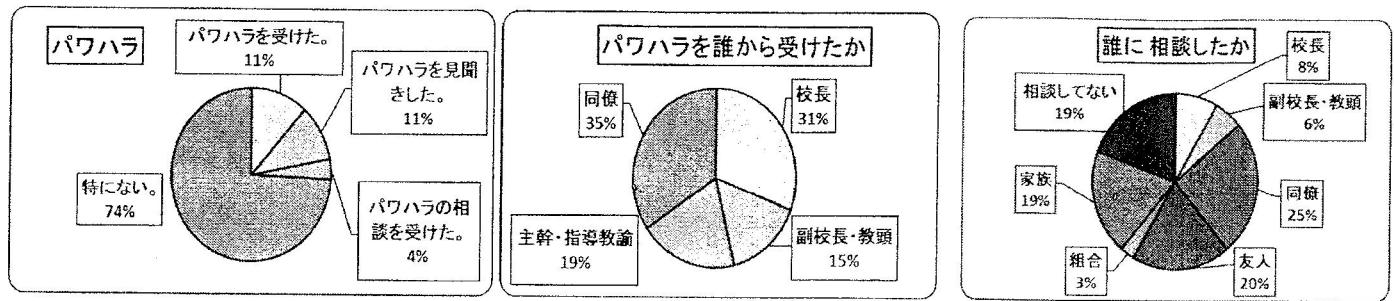
女性職員の容姿を話題にし、からかわれた。

生理休暇をとろうとする、「女はいいなあ」と言われた。

小さい子どもがいると、「よく休むので困る。」などよく聞く。子どものことで休みにくい職場は結構ある。男親が我が子の授業参観等で休むと、女親の方が行けないのかなど言われたりした。

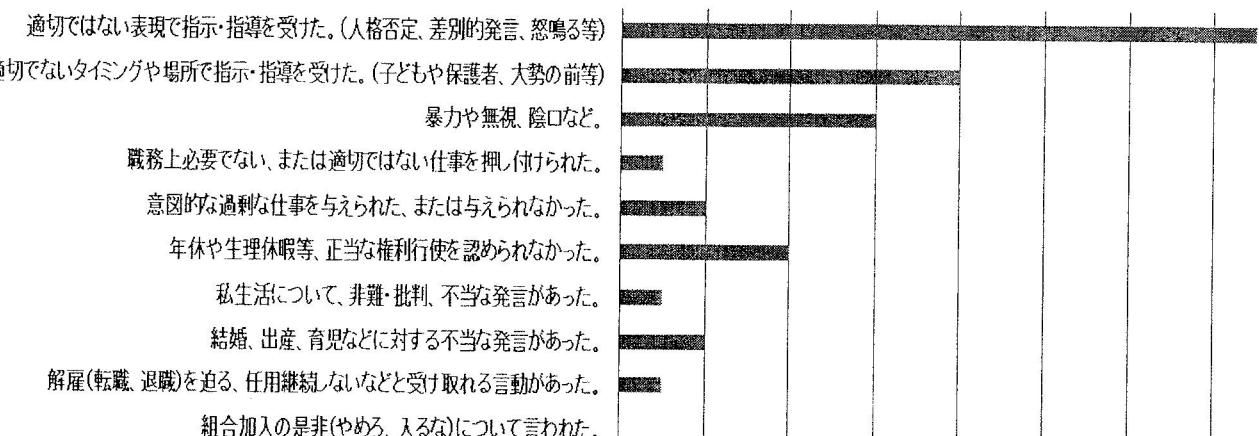
(記述より抜粋)

パワハラについて



パワハラ内容

0% 5% 10% 15% 20% 25% 30% 35% 40%



校長室から何時間も出してももらえず、校長に人格否定するような言葉や罵声を浴びせられた。

校長が当たり前のように職員を呼び捨てにする。他の人の会話の中で度々呼び捨てにしていることに嫌悪感がある。

校長が自分の気に入らない意見などにかぶとなり、怒鳴ることがある。全体の責任者として、もっと冷静に人の意見に耳を傾けてほしい。

気に入った女性には「〇〇ちゃん」と呼んだり、子どもの前で若い教師をちゃん付けで呼んだりする。

相手によって態度を変え、ぞんざいな言い方をする。

(記述より抜粋)

自由記述より(抜粋)

どこまでがセクハラか、パワハラかわかりませんが人間関係ができていると、許せる範囲(冗談として受け止められる)もある。でも、こういうことを鵜呑みにせず、相談できるところがあるのはとてもよいことだと思う。よい人間関係の中で仕事をやっていきたいと思う。

人権が尊重される職場になるように研修会や勉強会を開いてほしい。自分も勉強して意識を高くしていかなければいけないと思う。

どこの学校も「若年研修」の名の下に、若い先生方に負担を強いている。研修に使った時間の分、若い先生方は夜遅くまで働いている。「先輩の授業に学ぶ」で全教科+「モデル授業」の授業参観もあり、主題研もありで、ゆっくり自分の学級で子どもたちと向き合う時間が、削られ過ぎていると思う。

「世界一忙しい日本の教員」とよく言われるが、状況は過酷さを増すばかり。「授業」以外の雑務が多くすぎる。そして、それはますます煩雜になっている。自分が過ごしたこの30年余りの間に、何十倍も大変になったと感じる。保護者の対応も難しくなっている。若い先生方は大変だと思うが、がんばってほしい。

2年前のアンケートと比べて

セクハラ

セクハラについては、受けた人の割合は変わりませんでした。ただ、受けたり聞いたりした人の内容に少し変化が見られました。2年前は、露骨に性に関するセクハラが目立ちましたが、今回は出産・生理休暇や子育て支援休暇など権利として当然取ってよいものに対して、ハラスメントが行われている実態が見えてきました。これは、①教育現場の教員不足(代替がない、配当されるべき少人数講師が来ないなど)、②教師の持ち時間数の多さ、③全国学力テストから波及した学力・体力向上推進などと関連した業務(書類やそのための取り組み等)、④学校評価や個人評価などにも通じる保護者や児童生徒への対応、⑤複雑化する児童生徒指導など、明らかに教職員1人あたりに対して、教育現場の仕事量の多いことや仕事の質が多岐にわたっていることで多忙化している現場が要因になっていると思います。

パワハラ

パワハラについては、受けた人の割合は3%ほど下がっていました。しかし、校長によるパワハラの内容が、尋常とは思えないようなものもありました。また、主幹教諭や指導教官、同僚によるパワハラの割合が、かなり増えています。(共に13%→19%、35%)これも、学力向上推進など、若年教師や講師に直接関わる教職員が、負担を強いられているのではないかと思われます。いずれにしろ、教職員は多忙を極め、精神的にもぎりぎりのところで、“児童生徒のため”とがんばっていることは確かです。

よりよい人間関係の中でこそ、いい仕事ができるものです。よい人間関係とは、ひとり一人の人権が尊重され、助け合いながら意見交換をし、一個人であるとともに一教職員であることが、両立できることではないでしょうか。仕事の内容や仕事の量を吟味していくこと、そして、教員数を増やすことが、権利も安心してとれないような汲々とした教育現場を作り出さないことにつながると思います。教員数が確保され、また、増員されること。それによって教員1人あたりの仕事内容と量が適切になるように、委員会に要求していきたいと思います。

たくさんのアンケートをお寄せいただきありがとうございました。

